

生徒が積極的に学校運営に参画へ -生徒の主体性を喚起- 【観点Ⅲ】
佐伯市立彦陽中学校（生徒数 56人 学級数 4）佐伯教育事務所

現状・課題

- ・自己肯定感の低さに起因する自ら判断して行動する力の弱さ
- ・自己実現に対して自ら学びに向かう姿勢の乏しさ
- ・自分の考えを整理し、他者にわかりやすく説明する力が不十分

概要:彦陽中学校では、生徒の主体性や自己肯定感の向上を目指して、生徒と教師が意見交流する「ST (Student Teacher) 会議」を開催している。

「ST (Student Teacher) 会議」

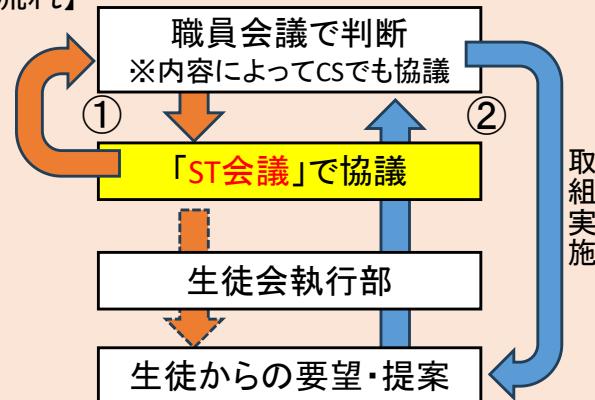
【期日】毎月1回昼休み開催

【参加者】

生徒側：生徒会執行部及び中央委員会
教師側：校長、教務主任、研究主任、
生徒会担当等が参加
※議題に合わせて参加者を決定



【流れ】



- ①学校からST会議に議題提案
②生徒の要望をST会議で協議

【主な議題】※令和7年4月～11月に7回実施 ※流れ①②

- 第1回…学校グランドデザイン（学校経営方針）の説明①
第2・3回…学校の教育目標に係る生徒会の学校スローガン提案②
第4回…清掃時間帯と取り組み方（清掃手順・黙想）について②
第5回…1学期のST会議についての感想と今後の構想①
第6回…学校教育目標及び学校スローガンについての振り返り①
第7回…生徒会新体制における学校へ要望と活動計画、生徒会新聞の地域配布について②



【主体性・参画意識の向上】

- ・生徒会活動において新しい提案をする生徒が増加。「ST会議」は「挑戦できる場」
- ・学級満足度の向上：Hyper-QU学級満足群の割合 R6:全校平均57%→R7:81%
- ・自己肯定感の高まり：生徒アンケート「自分に良いところがある」肯定評価
R7.7月全校平均68.1%→12月74.1%

周囲の声より

【生徒】3年生の挑戦する姿を見て「自分たちも挑戦できる」と思えた。

【教職員】生徒が自分たちの意見を学校に伝える風潮が浸透してきている。
前年踏襲に捉われない新しい取組に挑戦しようとする姿が増えた。

成果

導入を検討する学校へ

- 生徒が安心して意見を述べられるような雰囲気づくり
- 教員側がどの程度生徒に決定権を持たせるかを明確に意識すること
- 会議の内容が学校生活に具体的に反映される仕組みを整えることが、生徒の参画意識へ